

防災の視点を持つ 教員養成に向けた授業実践

～北海道教育大学の場合～

北海道教育大学札幌校
佐々木 貴子

授業開講までの背景

■ 酒井 多加志（地理学）：釧路校

関西出身者で、地理学を専門とする者として、学生たちに現在の地図と古い地図を比較し、地形の見方を理解させることの必要性を実感し、講義で実践する。

■ 今 尚之（土木工学）：旭川校（現 札幌校）

土木工学を専門とする者として、今後の防災はハード面からソフト面へとシフトする必要性を感じ、研究に着手。

■ 小松 丈晃（社会学）：元釧路・函館校（現 東北大学）

地域を中心とした防災の取り組みに関心を持つ。

■ 佐々木 貴子（家庭科教育学）：函館校（現 札幌校）

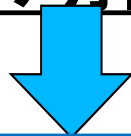
阪神・淡路大震災を機に、「防災の視点を取り入れた新たな家庭科教育のあり方」の研究に着手し、2000（平成12）年後期から**災害図上訓練（DIG）の手法**を取り入れた**「生活と防災」**の授業を開講する。

2006(平成18)年

北海道教育大学の再編・統合

【全学連携授業】

* 「現代を読み解く科目群」の設置



「子ども・地域と防災(防犯)教育」

(前期:2単位)

* 双方向遠隔授業システムを活用

・札幌、釧路、旭川、函館のキャンパス間をつなぐ。

● 2015年度～ 札幌校の改組に伴い、一時中断。

防災教育を行っていた大学

(2006年現在)

- 全国の大学で“防災“を学部及び学科として設置
 - ・2000年 富士常葉大学 環境防災学部
環境防災学科
 - ・2004年 千葉科学大学 危機管理学部
防災システム学科
環境安全システム学科
危機管理システム学科

授業のねらい（本年度シラバスから）

- 災害で多くの人々の命が失われているが、それは防災という視点が薄く、自助の意識やそれに関する知識が十分に教えられていなかったことに起因する。
- 子どもたちに、命の大切さ、人と人とのつながり、絆の必要性を教え、子ども自身はもとより、家族、そして地域の人々の生命や生活を、安全に守るために必要な能力や態度を育成することが、これまで以上に求められている。
- 学校は、災害時には地域住民の避難場所となる。

教師として、子どもの命を守り、地域の安心・安全確保へのまなざしをもつことが必要。

授業の構成(2014年度シラバスから)

■ Aパート:講義(1回~10回)

「災害を知り、防災と教育を理解する」

- ・1週目 ガイダンス(札幌・釧路・旭川校をつなぐ)
- ・2週目 日本の国土と災害：札幌管区気象台調査官
- ・3週目 災害と地域や子どもたち：国立寒地土木研究所
- ・4週目 災害と防災、防災への取り組み：今尚之(札幌校:住居学)
- ・5週目 地図を読み解く(1)：酒井多加志(釧路校:地理学)
- ・6週目 地図を読み解く(2)：酒井多加志(//)
- ・7週目 コミュニティと防災：小松丈晃(函館校:社会学)
- ・8週目 防災教育と社会科：藤本将人(釧路校:社会科教育)
- ・9週目 防災教育と理科：境 智洋(釧路校:理科教育)
- ・10週目 防災教育と家庭科：佐々木貴子(札幌校:家庭科教育)

■ 中間試験

- ・プリコード式あるいはキーワードなどを記述する形式で、初回～10回までに獲得した知識を確認する。合格しないと、フィールドワークには参加できない。ただし、再挑戦できる。
- ・問題は各教員から出す。

■ Bパート: 演習(フィールドワーク)(11～15回) 「防災を体験する(まち歩き)」

- ・11週目 フィールドワーク事前指導
- ・12～14週目 フィールドワーク(釧路校、札幌校、旭川校)
 - ・災害イメージ訓練
 - ・防災の視点によるまち歩き
- ・15週目 フィールドワークのまとめと振り返り
 - ・各キャンパスの学びを発表し合い、共有する。

防災まち歩きの様子

■ 7月20日(土) 釧路校(酒井、今、佐々木)

8:45~15:45 災害イメージ訓練を実施したのち、
グループごとにまちへ出て、津波の
際の避難に着目しながら、まちを歩く。

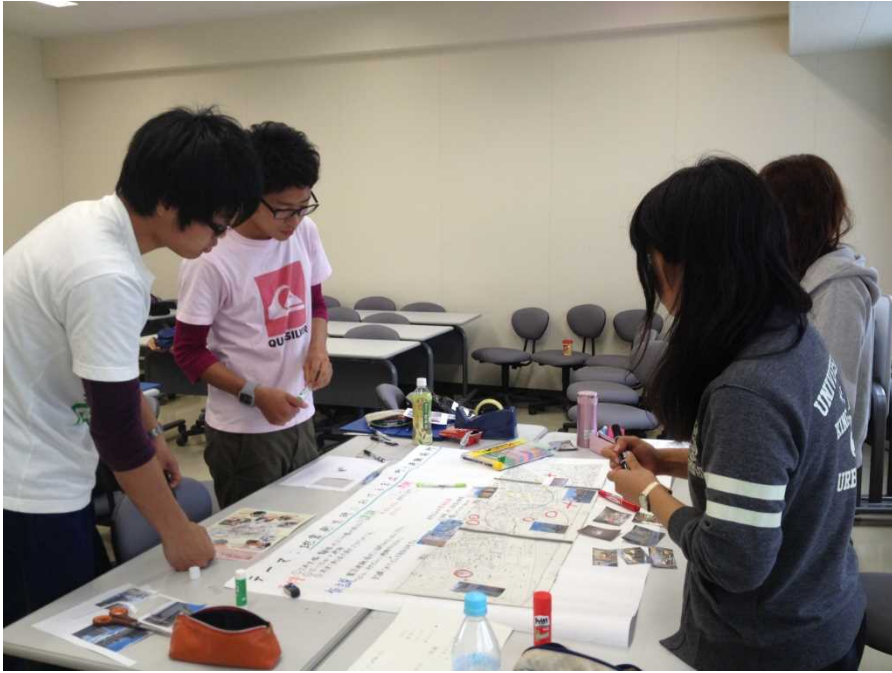




《釧路校の学生たち》

この坂は、津波の際の避難路になっている。学生たちは、坂の周辺を確認しながら歩いていた。





釧路校の学生の作品

0105 鶴沼 吉史
0256 佐藤 大紀
2236 石後岡 藍
2270 千葉 みつき

テーマ：地震発生時における末広町の避難場所

条件

- ① 久寿里橋、幣舞橋の2つの橋が使えない。
- ② 10～20分で避難
- ③ 津波(東日本大震災クラス)がくる。

課題

- ・ ホテル、ビル、あきビルの老朽化
- ・ 耐震性の強化
- ・ あきビルの環境整備
- ・ 食料、水、毛布等の物資の蓄えが十分であるか。

仮説 緊急避難場所に指定されていない、ホテル、ビル、あきビルに避難すればよい。
↓
封鎖されたビルを有効活用する。

考察 行政と民間の連携が大切!!

↑ 地震体験 → ↑ 揭示物 → ↑ 非常持出袋 → ↑ 119番通報

防災まち歩きの様子

■ 7月21日(日)札幌校(酒井、今、佐々木)

9:00～16:00 災害イメージ訓練を実施したのち、
グループごとにまちへ出て、水害の
際の避難に着目しながら、まちを歩く。



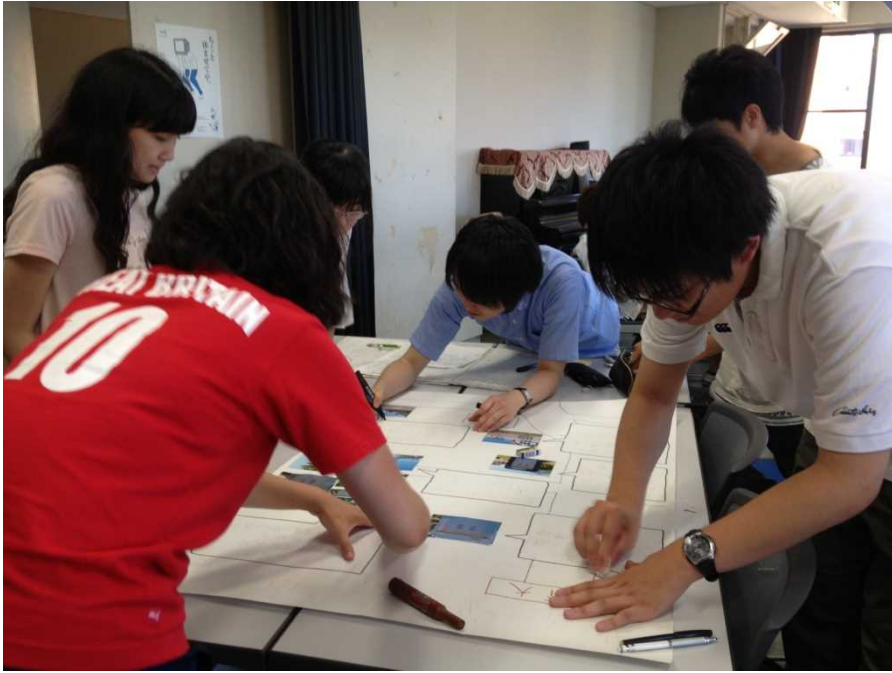


《札幌校の学生たち》

公園に置いてあった防災倉庫に興味をもち、自転車に乗ってきた地域のおじさんに中に入っている物を尋ねてみました。

大学の裏側を流れいる茨戸川を目指して歩いています。



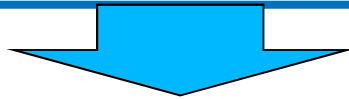


授業後の感想

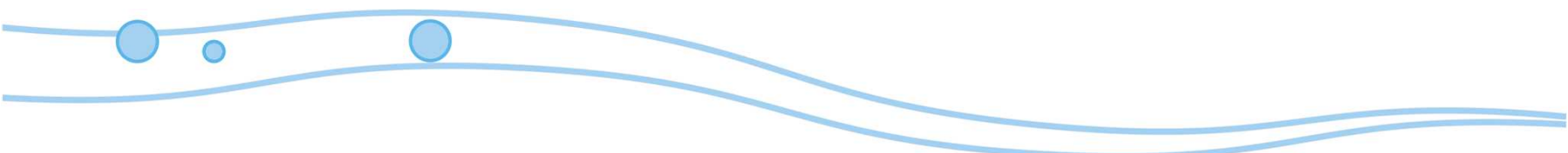
- 命の大切さを感じ取ることも防災教育の役割であることを認識した。
- 何気なく暮らしていた自分のまちに関心を持つようになった。
- 家族と町内会や避難のことなどについて話をした。
- 釧路校では、津波に着目してまち歩きをしたが、地域に発生する災害を想定することの必要性を感じた。
- 災害イメージ訓練では、自分が気づかなかったことを友人から教えてもらうことができ、楽しみながら学べた。
- 私ごととして災害を捉える必要性と、教員となった時には教師として真剣に訓練する姿を子どもたちに示していきたい。

課題

- 半期で行える授業の限界
- 災害や防災に関する内容を扱う専門の講義科目との連携が不可欠
- 防災教育に関わる教材開発を行う授業の必要性



・意識付けから、実践力を養成する段階へ



【現場教員へのアプローチ】

- 免許状更新講習
- 北海道学校力向上プロジェクト
- 北海道教育委員会・道立教育研究所・札幌市教育委員会が実施する防災に関する研修会
- 道庁・気象台が実施する防災に関する研修会
- 各地域での防災に関する講演会、研修会
- 各学校単位で実施する防災に関する研修会
など。

ご清聴ありがとうございました。



気象台のキャラクター “はれるん”です。